

## I：パラオの概要

- ①国 名：パラオ共和国
- ②公 用 語：パラオ語・英語・日本語（アンガウル州のみ）
- ③首 都：マルキョク
- ④最大の都市：コロール
- ⑤政 治：大統領制
- ⑥面 積：459平方キロメートル（世界第198位）
- ⑦独 立：1994年10月1日（国連信託統治国のアメリカ合衆国から独立）
- ⑧通 貨：米ドル
- ⑨時 間 帯：UTC+9（日本時間と同じ）
- ⑩国 旗：海を表す青地に月を表す黄色い丸。  
日本国旗に似ているが黄色い丸は旗の中心より左側に描かれている。
- ⑪歴 史：パラオに歴史的な記録が全くない。それは、歴史については語り継ぎ方式だからである。

### 有史以前

有史以前のパラオについては未解明。約4000年前からの生活遺跡が確認されている。

### スペイン植民地

16世紀頃、スペイン人が初めて訪問する。

1885年にスペイン領東インドの一部になった。この時、天然痘と搾取によってパラオの人口は10%程度になった。

### ドイツ植民地

1899年スペインの国力衰退によって450万ドルでパラオを含むスペイン領東インドをドイツ帝国に売却する。

ドイツは、ココナッツやタピオカ（タロイモ）栽培やアンガウル島でリン鉱石採掘などの産業振興を始めた。しかし、それらで得られた収益は全てドイツに独占され、パラオは紙幣経済感覚が浸透することは無かった。ドイツは、インフラ整備や初等教育を実施することも無く、ドイツ時代の遺構はほとんど存在していない。

1914年、第1次世界大戦が始まり、当時の日英同盟によって連合国の一部であった日本は海軍をパラオに派遣する。当時のドイツ守備隊は数が少なく瞬時に降伏させた。

### 日本委任統治

パリ講和条約に基づき、パラオはドイツ植民地支配を脱し日本委任統治領となり、日本国南洋庁及び南洋庁西部支庁（パラオ支庁）が設置されたことによって多くの日本人が移住し、パラオはミクロネシア諸島の中核的な島となった。

昭和18年6月時点における移住者は33,960人。内訳は、日本内地からの移住者が25,026人、朝鮮系日本人が2,460人、パラオ人は6,474人、

スペインやドイツの宣教師が18人との記録がある。

日本は、学校や病院、道路、水道等のインフラ整備や貨幣経済の移管を重点的に実施したことによって、1920年代頃には近代的な町並みが形成された。

1933年（昭和8年）、国際連盟を脱退するが、国際連盟加盟国は日本によるパラオの委任統治継続を認めた。その後日本は、各地に海軍関連施設を建設した。第2次世界大戦が始まると北西太平洋方面の海軍基地となった。

1944年（昭和19年）、アンガウルやペリリューの戦いなどによって日米両軍に多数の戦死者を出した。しかし、ペリリューの戦いではパラオ民間人の死者はなかった。

1945年（昭和20年）、日本の降伏によって日本委任統治が終了した。

#### アメリカ信託統治

1947年、国際連合の委託を受けたアメリカ合衆国は、パラオを統治下に置く。アメリカはミクロネシア地域に動物園政策を実施する。動物園政策とは、教育や福祉についての援助は行うが産業開発関係は全く実施しなかった。これによりパラオは産業が発生せず、財政についてはアメリカの援助に頼り切りとなった。この結果、パラオ人は就業意欲や労働意欲を失うこととなった。さらには、アメリカからの食料輸入によって肉製品が主流となり肥満の問題が発生した。

#### 独立への動き

親日的なパラオ人は、アメリカによる『日本が悪』とした教育方法に疑念を抱いていた。

1979年7月、パラオは、アメリカによる核兵器の持ち込みを禁じた「非核憲法」を住民投票で可決する。

これを受け、アメリカ政府は信託統治領高等裁判所へ異議を申し立て、アメリカ政府の意向を受けた高等裁判所は、パラオの「非核憲法」を無効とする宣言を行った。これによって、非核条項を緩和した憲法草案で住民投票をするが否決されることとなった。

1980年7月、最初の「非核憲法」で再度の住民投票を実施した結果可決された。

1981年に自治政府「パラオ共和国」を発足させ、憲法を発布した。

1982年、内政・外交権をパラオ、安全保障をアメリカが担うとしてアメリカ軍が駐留し、その見返りとしてアメリカが財政援助をする自由連合盟約を両政府で合意したが、パラオ住民投票で否決された。

これ以降、1990年まで都合7回の住民投票を実施するも全て否決されている。

#### 独立

1990年代初頭の冷戦終結を受けて、アメリカにとってパラオの利用価値がなくなった。

1992年、パラオ憲法内の非核条項をアメリカとの自由連合協定においてのみ凍結することに決まり、コンパクト承認のための住民投票の可決条件を緩和する憲法

改正の住民投票を実施した結果、可決された。これと同時に実施された大統領選挙でクニオ・ナカムラが当選した。

1993年には、緩和された住民投票の可決条件の下、8回目の住民投票でアメリカ合衆国とのコンパクトが承認された。

これにより、1994年10月1日に、パラオはコンパクトによる自由連合盟約国として独立し、国連による信託統治が終了し、同年に国際連合へ加盟した。

## II：政治の流れ

政治課題として、アメリカの経済援助が2025年に終了することによる財政の自立化や、世界に広まった COVID-19 以降減少した観光客の誘致などが挙げられている。

2023年、世界銀行は太平洋諸国の過剰債務のリスクを検討。他国が2019年以降、COVID-19 対策で政府支出を拡大して債務を増やす中、パラオの債務に関しては持続可能という判断を示した

## III：日本とパラオとの関係

2003年現在、日本や台湾（中華民国）、アメリカ、フィリピンを含む29ヶ国と外交関係を樹立しているが、その中でも旧統治国である日本やアメリカとの関係を重視している。中華民国と対立関係にある中華人民共和国とは国交がない。

1996年に崩落した KB ブリッジの再建を始めとした多くの援助が日本によってなされているなど、パラオと日本の関係は国際連盟の委任統治時代以降も深い。

三重県はナカムラ元大統領の父が三重県伊勢市の出身であった縁で、1996年以降友好提携関係にある。また旧首都コロールは現在東京都と姉妹都市になるべく交渉中である。

コロール島の旧官幣大社南洋神社やペリリュー島のペリリュー神社（南興神社）、アンガウル神社が、1980年代以降に日本からの資金により再建された。また、日本からの遺骨収集団や慰霊団も度々訪れている。

現在でも日本や日本語に親しみをもち、子供に日本風の名前をつけるパラオ人も多い。パラオ語には多くの日本語の言葉が取り入れられており、また、パラオにある唯一の公立高校では、1964年から選択科目として日本語を取り入れている。さらに、アンガウル州では州の公用語の一つとして採用されている。

第7代大統領のトミー・レメンゲサウは、2005年7月の来日前に行われた会見で当時の小泉首相の靖国神社参拝について「すべての人のために祈るのは正しいことだ」と支持を表明した。また、第6代大統領クニオ・ナカムラの代理人が靖国神社に参拝した。

一方でクニオ・ナカムラは「南洋」という言葉が旧植民地宗主国の主観に基づくものとして「われわれの国々を“南太平洋”と呼ぶのもけっして適当とはいえない。

“太平洋諸国”といってほしい。“南”は不要です」と発言している。なお、パラオは北半球に位置する。

2021年、他のミクロネシア圏の4カ国とともに太平洋諸島フォーラムからの離脱を表明。

2022年2月、中台関係問題に関する不満から、2021年2月に始まった太平洋諸島フォーラムからの脱退手続きを停止し、2022年7月に脱退を撤回した。

#### IV：天皇・皇后のパラオ訪問

2015年4月8日から9日にかけて、日本から明仁天皇、美智子皇后（いずれも当時）が国際親善と戦没者慰霊のため訪問した。

明仁天皇は長年、パラオを含む西太平洋地域での戦没者の慰霊を強く希望しており、慰霊に際してはパラオのトミー・レメンゲサウ大統領夫妻のほか、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島の大統領夫妻も同席することとなった。天皇の訪問はパラオの報道で大きく取り上げられ、歓迎ムードのなか、天皇を迎えるにあたって道路の整備が行われ、道路脇などにはいくつもの日の丸が掲揚された。

この訪問に際し、パラオ人に行われたインタビューでは「日本との交流は素晴らしかったので年配の人たちは日本と交流したい気持ちである」との声や「パラオ人も嬉しいが一番嬉しいのは同地での戦没者であろう」との声が寄せられた。9日、供花のために訪れるペリリュー島では、学校、職場が休日となり全島民600人で天皇皇后を出迎えることとなり、ペリリュー州は4月9日を「天皇皇后両陛下ご訪問の日」として州の祝日に法律で制定した。

この訪問後、観光でペリリュー島に訪れる日本人が増加している。

## V：視察報告

12月13日金曜日、在パラオ日本国大使館にて特命全権大使と面談しました。

私からは、2013年に初めてパラオを訪問したこと。

それから公務・政務合計6度の訪問をしたこと。今回が7回目公務として最後の訪問となることを伝えさせていただきました。



↑私の右側に同席しているのが、弘前市選挙区選出 同僚議員の菊池勲議員です。

←私の左手側に着座しているのが、在パラオ日本国大使館 特命全権大使 折笠弘維氏です。

折笠大使からは、来訪した事の御礼。もともと令和6年12月16日の面会予定だったのですが、急遽他の仕事が重なってしまった事。それで、16日の夜に在パラオ日本国大使公邸での夕食を準備した事を告げられました。

続いて、大使館としてのパラオとの協力状態にある事、パラオ各州知事とのコンタクトを実施している事、遺骨収集に関する各州との連携等の説明がありました。

これは、在パラオ日本国大使館前で大使館職員と私、菊池県議のショットです。



訪問後、私は着替えてペリリュー島に渡ることになりました。ペリリュー島に着く直前に旧日本軍が船底の深い船を入港するために浚渫をした場所で一時船を止めてもらって同僚議員である菊池勲氏とともに拝礼をさせていただきました。



- ・お酒（青森県産酒）
- ・お酒（青森市・廣田神社）
- ・塩（青森市・廣田神社）
- ・米（青森市・廣田神社）

この場所は、私が1回目の訪問した時にペリリュー島から離れる際、違和感を感じた場所です。

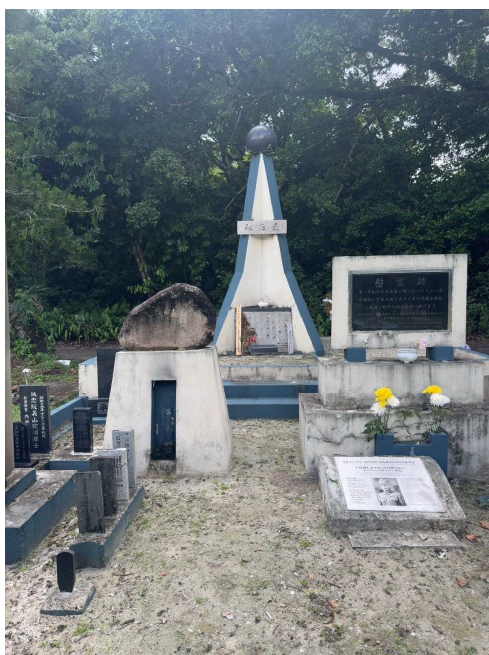
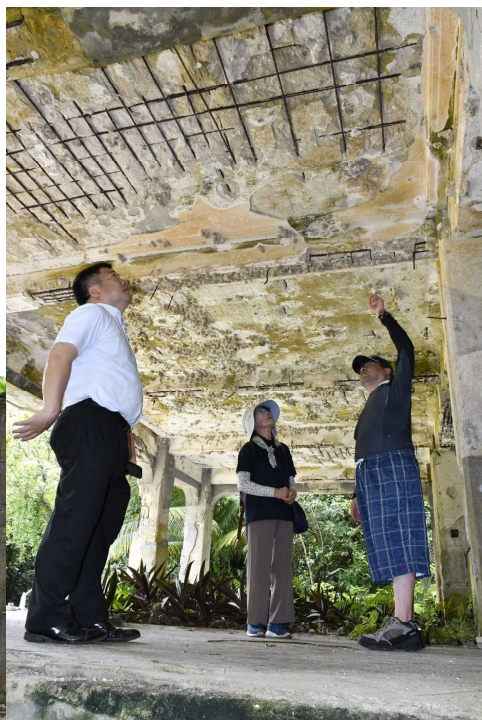
ペリリュー小学校では、2018年当時の校長先生が異動している事。現校長先生が直接教壇に立っている事。全体の生徒が減ってきている事。指導方針は変わっていない事。怒り方も変わっていないようで、1回目・2回目は生徒に理解できるように直接怒っている。3回目・4回目は生徒自身に清掃等の奉仕活動をさせている。5回目以降は生徒と保護者共同で清掃等の奉仕活動を指示しているようです。



12月14日から12月15日

→旧日本海軍司令部跡、80年経過していても当時の装飾が残っている部分を私から菊池県議に説明しております。

↓ビーチに設置されていたトーチカ。室内には白骨化した遺体があったと言われていました。



←ペリリュー島  
集団墓地。背後には  
住民の墓地がありま  
した。



↑旧日本海軍司令部跡



→お世話になったドルフィン・  
ベイ・リゾートの方々と私、  
菊池県議の集合写真。



←ペリリュー島にあった旧日本海軍弾薬・燃料  
倉庫から第2次世界大戦記念館を移設中だっ  
たようです。



→第2次世界大戦記念館を管理している方のシ  
ョットです。



←記念館の中にあった日本国旗。





↑ 記念館の中に展示してあった機関砲。



↑ 農耕用器具の遺跡。  
← 移設中の展示品の整理途中。



→ ペリリュー島で埋められた6両の内3両目の発掘現場に立ち会いました。



← 3両目の内部の状況を撮影している様子です。



→側面に何かが書かれていたらしいのですが判別できず。詳しく調べればわかると思うが・・・



←集団埋葬地の発掘現場。報道では7柱となっていましたが一覧数えただけでも少なくともそれ以上埋まっていると思いました。写真にある木の下にも遺骨があるようで全部で1000体以上がある可能性があるそうです。1日でも早い地元への帰国を願ってやみません。

→菊池県議を写真撮影。



→ペリリュー州知事と記念撮影。ワニの骨（州知事が捕獲したとのこと）と一緒に。

慰霊碑や遺骨収集等作業現場の視察等を報告。

それに対して突然のキャンセルをお詫びされた。

少しの時間でしたが終始にこやかに現在の課題等についてお聞きする事が出来ました。



12月16日



パラオ国立博物館の前にあったアーバイ集会場の前にて。

(考古学部門主任)Ms. Sunny Ngirma ng, Chief of Archeology Division, B CHP

(博物館館長)Ms. Olympia “Pia” Morei, Director of Belau National Museum

まず私から、パラオとの関係（遺骨収集等に関わった経緯や渡航歴、病気の症状により近年パラオに来ることが出来なかった事情など）と、今回の訪問の目的（遺骨収集等の作業視察、各州知事などへの表敬等）を説明。

- ①国立博物館として今後日本とどの様に関わっていきたいか。
- ②日本からの観光客にどの様に関心を持ってほしいか。
- ③具体的にどの様なサポート等が有効と思われるか。

等について集客に関することを中心に意見を伺った。

パラオ特にコロール州には、戦前日本の統治時代に建てられた歴史的建物が多数あり、



日本の観光客に興味を持って訪れてほしい。日本とパラオの歴史的関わりを若い世代が知ることも非常に大事だと思う。

当博物館には日本コーナーがあり、あらゆる歴史的資料・データが貯蔵されている。現存している建物に歴史的背景を説明するサイン・掲示板・看板等などを設置したり、史跡のマップを作成することが出来れば、観光客にももっと知ってもらうことが出来ると思う。その為には予算が必要になります。

在パラオ日本国大使館の人がパラオの事や史跡等に興味を持って聞きに来てくれました。

笹川財団の協力によって海洋の開発はかなり発展して、観光のほとんどはダイビングになっている。パラオには海洋だけではなくそのほかにも研究対象となるものがある。例えば、自然環境・樹木・昆虫・動物、また何百種類という薬草も自然界に存在しています。

ミクロネシアやパラオの専門研究している学者などが少ないということも関係していると思われる。2024年夏に三田教授という方が生徒15人程度をパラオに送ってきて2週間程度パラオに滞在したとのこと。（後日大使館に聞いたところ、京都産業大学 三田 貴 みた たかし 教授との答えが）

リタイヤした人が移住、あるいは訪れるにも住みやすいリラックスした環境だと思っている。

パラオ語として残っている日本語が多数あり、そのような言葉が約3000語、近くまとまったら“辞書”を発行したいと考えている。辞書になるということは、正式にパラオ語として認められたということになります。



コロール州知事オフィスにて。

（州知事） Mr. Eyos Rudimch, Governor

（対話・司法部門主任） Ms. Jennifer Olegeriil, Director of Conversation and law Enforcement

パラオとの関係（遺骨収集等に関わった経緯や渡航歴、病気の症状により近年パラオに来ることが出来なかった事情など）と、今回の訪問の目的（遺骨収集等の作業視察、各州知事などへの表敬等）を説明。

集客のメインはダイビングが中心であるが、その他にも世界遺産に登録されるような歴史的・文化的に値の高い観光地や戦跡・史跡もあるので、是非そのようなところにも来てほしい。



日本を含む世界的なダイビングのイベントにも参加してベストダイビング地に選ばれるなどしている。

ペリリュー島を訪れた際、ゴミ捨て場を視察。ごみ処理の問題に関して伺ったところフジ氏という元 J I C Aの方がガラスの再利用で工芸品を製作していると紹介していただきました。



スティーブン・R・サリー（アンガウル州知事）

パラオとの関係（遺骨収集等に関わった経緯や渡航歴、病気の症状により近年パラオに来ることが出来なかった事情など）と、今回の訪問の目的（遺骨収集等の作業視察、各州知事などへの表敬等）を説明。

アンガウル州は、世界で唯一日本語が公用語の地であり、古くから日本との関係が深い。若い世代が日本語を話せなくなったりしているのは非常に残念です。これからも二国間の関係をより強固にしていきたい。

中国は様々な形をとってパラオに接近してきている。しかし、パラオと中国の関係は日本との関係とは異なる。日本とは歴史的・文化的に非常に深い結びつきがある。

アンガウル州にはアメリカのレーダー施設もあり、一応中国の動きをアメリカが見ることが出来るようになっているが、レーダーや施設だけでは十分ではないと思う。ペリリュー島には、アメリカが滑走路を建設中だが完成するまでには2～3年かかる。その間、パラオに必要なのは日本の自衛隊のプレゼンスだと思う。滑走路がまだ無いので航空機は来ることが出来ない。それであれば海上自衛隊の艦船を1泊でも2泊でもパラオに停泊してもらい、自衛隊員が街に姿を現すなど日本がパラオに来ているということを中国に示してほしい。ペリリュー島に滑走路が出来たら離着陸を行ってもらいたい。日本の存在をパラオで示すことが出来るのであればそのような形が望ましい。

在パラオ日本国全権大使公邸にお招きいただきました。全権大使・他職員2名と私共に食事をいただきました。

その際、大使および大使館職員のこれからの取り組み等をお聞きさせていただきました。

大使館職員の2人は、JALの直行便の話、パラオの魅力について話もしていました。

これからの大使館の動きにも注目したいと思いました。



12月17日



ガスパン州知事のオフィスにて。

**Mr. Jersey Iyar, Governor**

パラオとの関係（遺骨収集等に関わった経緯や渡航歴、病気の症状により近年パラオに来ることが出来なかった事情など）と、今回の訪問の目的（遺骨収集等の作業視察、各州知事などへの表敬等）を説明。

予算や人員の関係上、史跡等の管理は非常に難しいのが現状です。

予算等があれば、戦跡博物館等を作り小物等を屋内に保存・管理したり、もっと予算があれば倉庫のような大きな場所に車両・戦車等を移動・保管し高温多湿等の外的環境から守ることは可能だが、そのような予算がないのが現状です。

観光等で訪れる人数は、1日多くて20名以下、3～4名という日もある。パーミットからの収入はほとんどが維持費に充てられている。場所を管理していくには管理人が少なくとも1～3人必要であり彼らの給料を払う必要がある。

10月の調査で和久井病院が発見されたことを伝えと、仮に歴史的価値がある場所があるとしても観光客を呼ぶためにはそこに至るまでの道路を開拓し安全を確保しなくてはならない。その為の予算と維持費が必要になってくるだろう。

戦跡の他にも、ガラツマオの滝など価値があるものがあるので、歴史等を更に生かして発信していきたい。



パラオ政府観光局のオフィスにて。  
(観光局主任) Mr. Kadoi Ruloked, Director of Palau Visitor's Authority

パラオとの関係（遺骨収集等に関わった経緯や渡航歴、病気の症状により近年パラオに来ることが出来なかった事情など）と、今回の訪問の目的（遺骨収集等の作業視察、各州知事などへの表敬等）を説明。日本からの観光について。

一番の課題は、パラオー日本間のアクセス方法です。現在、台北やグアム経由で直行便がありません。やはり乗り換えが有ると無いとでは便利さが違うと思います。ただ、2025年からユナイテッドの直行便が出来ると発表されました。

日本人の思い描くパラオと、パラオ人が日本人に見てほしいパラオのイメージにはギャップがあると思います。ですから、日本語でも見る事が出来るウェブ作成をしておりそこから色々と発信してギャップを埋めていけるとと思います。9月に日本の横浜や大阪で行われたEXPOにも参加して観光戦略を行っています。JICAの小野寺美佳さんにマーケティングで協力してもらっています。

パラオと日本の関係は戦争前からの特別なものですが、そういったことを知らない若い方が増えているようです。主任の先祖にも日本人がいます。主任はパラオと日本のクォーターです。パラオの銀座通りなども、昔日本に行ったパラオ人が銀座に感銘を受けて付けた名前です。

観光で言うと、日本との関係は少なくともコロナ前の関係に戻したいと思っています。昔は日本観光客が一番多かったのですが、2013年・2014年と中国がトップになりました。コロナの影響によって現在では4位に甘んじています。観光局としてマリンダイビングEXPOに参加して宣伝していますが、直行便・円安といった課題も解決していかなければなりません。直行便があった頃は、日本のサラリーマンが仕事終わりの金曜日の夕方にスーとのまま飛行機に乗り週末にパラオでダイビングをして日曜日の夜までに日本に戻ると光景がよくありました。

私が、オフィスにある廣田神社のお守りを指定すると、主任は昔日本の空港に視察に行き、沖縄に寄った時いただいたものですとのことでした。



日本からの観光に関しパッケージツアーと個人ツアーの比較を伺うと、F I T（フリーインディペンデントツアー）のほうが色々なものを見ることが出来たり、様々なところでお金を落としてくれるのでいいとは思いますが。パッケージですと泊まる場所訪れる場所など予定がすべて決まっております、それ以上のことが起きませんからパッケージが悪いわけではありません。良いところもありますし、仮にF I Tが発達してもパッケージは常に存在します。ですがF I Tで個人により自由に自由時間をもってコミュニティの中に入っていき一般的に観光地として知られる場所だけではなく歴史的な様々なものを見たり、いろいろなお店で食べたりしてお金を落とす範囲を広げていってほしいですしパラオのことをもっと知ってほしいと思います。



アルモノグイ州知事のオフィスにて。

**Ms. Ilolang Remengesau Vogt, Governor**

パラオとの関係（遺骨収集等に関わった経緯や渡航歴、病気の症状により近年パラオに来ることが出来なかった事情など）と、

今回の訪問の目的（遺骨収集等の作業視察、各州知事などへの表敬等）を説明。また2018年に同僚議員と合計4名で伺ったことを伝えた。

日本から来られると言うことでお話ししたいことを何点か資料を送りました。（在パラオ日本国大使館に送信していたらしい）

1つ目は、ハイキングロードにある日本の船の正体が確認できるかです。情報が確認できれば正確な記述を表示できます。

2つ目は、ゼロ戦です。パイロットの事は知っていますか？何年か前にJICAの方がリサーチしてパイロットの情報がわかりました。Hisamitsu Yoshida 当時19歳です。

3つ目は、灯台近くにあるドック（船着き場）です。灯台があるのは知っていますか？私の家の近くで時間があれば後で案内できます。このドックは良く出来ており現在でも使用可能だと思います。ただ、灯台やドックまでの道が草木が生えアクセスが難しい状況です。灯台までの道を切り開けば、今後船着き場を再利用する事が出来ます。土地は私有地ですが、地主から協力していただけるよう署名をいただいたので、州として国に観光地（史跡）として登録を申し込んでいます。現場を視察・調査は可能です

か？

他の州の事なので我々がどうこう言うわけにはいきませんが、ガスパン州の孤島（離島）にレンガ作りの建造物があるのは知っていますか？おそらく日本の建造物と思いますが調査はしないのですか？アクセス方法は舟になります。潮や天気によりボートか手漕ぎになると思います。

パラオ国立病院 中野歯科医師

2013年にパラオに勤務になった時、パラオ人の歯の状態が悪いのに驚き改革していかなければと思った。もともと歯磨きの習慣がなかったパラオの人々。そこで中野医師は小学校へ出向き歯の大切さと必要性をすべての小学校で説明していったという。

12月18日

インパックスツアーズの代表取締役 菅原勇哉 氏に話を聞いた。日本人とパラオ人が共同経営者にならなければ、日本企業がパラオで起業する事が出来ません。

近年のパラオではどんどん規制が厳しくなっているとの事、日本人観光客には日本語・パラオ語・英語が話せる事。同様にアメリカ人には英語・パラオ語が話せるガイドを、台湾人には中国語・英語・パラオ語のようにどんどん規制が厳しくなっているとの事でした。最近中国人経営者がどんどん減っていているようである。

ホテルも同様に中国系企業がどんどん減っているようである。中国系企業は台湾系企業に変わっていているようである。

2013年初めてパラオに来訪した際お世話になったのが、RITC（ロックアイランドツアーカンパニー）です。

当時菊池氏にお世話になったのですが、菊池氏は日本に戻ってしまっていて菊池氏の意思を継いだのが平野雅人氏とのこと。ホテルでちらっと挨拶しただけだったので事務所に訪問したのですが、あいにく不在でした。

## VI：視察を終えて

私の海外派遣の議案上程は令和6（2024）年9月第319回定例会で2024年10月8日に議決していただきました。しかし、旅費の支給は出発の前日と聞いて一時は諦めようと思いました。ある方からの支援がなければ、私は諦めていたと思います。海外派遣とはいえ少なくとも1ヶ月前には旅費を支払わなければなりません。特別でも何でも無い普通の手順です。青森県だけがそうなのかは他県の状況を調べる訳にはいかないです。



コロール州知事からご紹介があったKatsuo Fuji氏の工房に向かいました。高温多湿の中に炉が置いてあり更に暑さが増していました。

そんな中、下の写真を注文してしまいました。2025年2月上旬には届くと思います。Keiko Setoguchi氏が日本に帰国する時に持ち帰ってくれるそうでありがたい事です。これが、すべてリサイクルガラスとは」信じられないです。



そして後日私の元に一般社団法人日本戦没者遺骨収集推進協会のパラオ発掘部隊隊長である白方氏から令和6年度パラオ現地調査・遺骨収集派遣（第4次）時にホワイトビーチの発掘戦車画像をいただきました。白方氏からは県議会への報告書のみ記載が許されています事をお伝えいたします。



1 台目





2 台目 (カガ)





3 台目





2025年2月～3月にJALがパラオ直行便をテストフライト的に運行をするそうです。ダイビングの時期に定期便として運行する予定との事。成田空港からか羽田空港からなのかはまだわかりませんが、いずれにしても直行便が出来る事は歓迎します。パラオではONシーズンやOFFシーズンは無いそうでいつでもOKとの事でした。日本では四季があるので冬がありますが、パラオでは冬が無いので雪を見た事が無いそうです。

あるパラオ人は、降ってくる雪を見て“お金”降ってきているみたいと表現をしていました。我々にとっては降ってくる雪にうんざりしていますが、パラオにとっては素晴らしい事と感じているようです。これは、本県を含む雪国にとって観光に向かう事が出来るのではと考えました。

各州知事によって基本的に考え方は同じで、いずれの州知事も財政難を話していました。やりたい事は山ほどあるがどこから手を付けるか悩んでいるようでした。パラオでは、一般的に女性が仕事をしているそうです。土木とかの力仕事は、インドネシア人がほぼ行っているようです。アメリカンナイズされた事によって男性のほとんどが楽な仕事しかないそうです。男性の主な仕事は、ボートの運転・レンジャー・草刈り等だそうです。

コロール州知事からいただいたKatsuo Fujii氏のリサイクル工場で作られたマンタの置物です。実は、そのリサイクル工場はインパックスツアー事務所の手前にありました。12月19日は再びお邪魔しました。そこで自分の記念にネームプレートを発注して帰ってきました。



県の施策等には

- ①教育分野で広い視野を持てるような教育（英語等）の実施
- ②本県の戦争遺族（遺骨等）のDNA等の鑑定に必要な情報の提供
- ③青森空港や三沢空港の利便性向上（羽田空港をハブとしての乗り継ぎ）
- ④県内の国立公園や国定公園等の入場税等の提案

- ⑤青森空港発着の国際空港化の促進
  - ⑥青森空港や三沢空港から成田空港との定期便の誘致
  - ⑦陸・海・空の立体的な観光の促進
  - ⑧歯と口の健康づくりの促進
- 等の提案等を実施していく予定です。

今回が7回目のパラオ訪問となりました。

- ①上皇・上皇后両陛下の慰霊参拝もありました。
- ②遺骨収集も進んで来ました。
- ③ODAも復活しています。
- ④JICAの活動も活発化しています。

これらの事により公務・政務での活動は結果を持てたような気がしています。

特に十和田市の横浜慎一氏には大変お世話になりました。感謝・感激です。本当にありがとうございました。